

# 仙台「月一会」30周年記念講演会に出席して

鈴木 尚

ナオ歯科クリニック  
〒103-0001  
東京都中央区日本橋小伝馬町 15-17  
ASK 日本橋ビル 3F



月一会 30周年記念講演会後、菅崎直身前会長（前列中央）を囲んで。

スタディーグループ「月一会」が今年30周年を迎え、7月26日、宮城県歯科医師会館に於いて記念講演会が開催された。講演会終了後、場所を移して賑やかに祝宴も開かれた。

私の所属する包括歯科医療研究会は、「月一会」の皆さんとはスタディーグループとして同じ方向のフィロソフィーを持っていることなどから折に触れて交流があり、会員同士が互いに多くの知己を得てきた。そのため、今回の記念会にもお招きを受けたので、感想なども交えてその一部を報告したい。

まず、開会にあたって菅崎直身会長から月一会誕生の経緯やその変遷が紹介された。1983年3月、菅崎直身会長以下6名の会員で始まったこの会は、現在30余名の会員数を擁するという。30年前と言えば、まだまだ歯科臨床に関する情報が十分な時代ではなかった。そのため、当時は国内外から著名な講師を招聘して行われる聴講式の講演会が主な方法であった。しかし、もっと実際の症例からも学びたいという欲求に駆られた若き歯科医師たちは、月に一度自分たちの治療ケースを持ち寄ってディスカッションすることを基本に、毎月第三金曜日の夜にミーティングを持つことになった。

参加するためには設立当初から厳しい会則があり、学ぶ意識の高い現会員はその会則を乗り越えて現在に至っている。30年の間には脱落者も

出たが、厳しい会員資格は今も変えることなく入会の基準として続けられているという。

会長挨拶の後、5年以上在籍する会員で出席率のよい10名の演者が選ばれて表に示すような講演会となった。内容は日常臨床で最も重要な歯科臨床のベーシックから一部最先端となる治療まで多岐にわたったが、どの講演も熱のこもったものであった。個人的には興味を持てる症例が多くあり、各15分間の講演時間では物足りないと感じたのは私だけではない。

特筆すべきは4番の演者である平河内先生の講演で、卒業時に師事した千葉和彦先生（物故会員）と共同で治療した症例が紹介された。その一部始終を聴いて、月一会の強い絆を見る思いがした。こうした先輩後輩の環境の中でこそ立派な臨床歯科医師が育つのだ、と感じ入った。

すべての講演は長年にわたり研鑽

してきた成果の一部であろうが、すべての演者が一様に例会で経験した努力と苦しさが今の自分につながっていると訴えていた。

会場は約100名の関係者で一杯になり、おそらく誰もが心から大きな拍手を送ったに違いない。最後に会を長年にわたり牽引してきた菅崎会長の勇退が発表され、代わって木村純子会長が誕生した。新しい「月一会」は新会長の下でさらに活躍されることであろう。最後は新会長の閉会の挨拶で記念講演会は終了した。

その後、会場を移した祝宴は和気あいあいのうちに進められ、第一部で講演されなかった菅崎直身会長が会の30年を振り返り楽しい思い出や苦労話をスライドで解説された。夜も更けるころお開きとなったが、酒の勇者は三次会へと消えていった。なんとも楽しい一夜であった。心から月一会のますますの発展を願って結びたい。

演 題	発表者
1. 月一会で発表して ～その後の症例経過と私の成長～	岡山啓昌
2. サイナスリフトにおけるリスク回避の重要性	虻江 勝
3. 生理的治療顎位を模索した一例	清水俊克
4. 保存不可能な大臼歯への処置として自家歯牙移植を選択した症例からの考察 ～千葉和彦先生を偲んで～	平河内禎彦
5. 下顎側方偏位を伴う上下欠損症例に対する補綴学的アプローチ	柏崎 潤
6. 顎機能障害を伴う Class II 症例に対して矯正治療で対応した一例	杉山 豊
7. 総義歯印象法の分類と変遷	佐藤勝史
8. 生涯自分の歯で！ 3つのリスク管理	齋藤善広
9. 歯根破折・穿孔の接着治療 ～口腔外接着再植法と口腔内接着法の実際～	木村純子
10. 智歯の有効活用について ～再植か矯正移動か～	佐藤善徳